

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 凌雲福祉会	代表者	稲次 正敬	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域・自宅での暮らしが維持できるよう、「通い」利用を中心に、利用者・家族の様態に応じ「訪問」「宿泊」を組み合わせ24時間・365日固定された時間にこだわらず、一人ひとりの生活に合わせ臨機応変に対応し、その人らしい生活、暮らし方が継続できるよう、一日の決められた日程等を設けることなく、家事活動を中心に利用者の持っている意欲、力を引き出し生きがいの持てる暮らしを目指しています。私たちは、可能な限り在宅で暮らすこと、最期までその人らしい人生を送っていただけるよう、その人の思いと願いを大切に支援・サービスを提供しています。
事業所名	小規模多機能ホーム 第2藍	管理者	上村 佳乃子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	2人	2人	1人	人	3人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様全員の情報を共有できていないので、ミーティング等で情報把握・共有するよう努めます。	ミーティング以外にも申し送りノートや連絡帳も活用し情報の把握・共有に努めました。		職員の技量に差があるので、同レベルの支援ができるように先輩職員が指導し、第2藍の理念に沿った支援ができるよう努めます。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者様が居心地良く、目でも楽しめる空間を利用者様と一緒に作っていきます。	季節感のある環境を作るため、日々利用者様と一緒に季節に応じた作品等を作りました。	手作りの掲示物がたくさんあり、また季節ごとに工夫しよく取り組んでいると思う。	引き続き利用者様が居心地良く、目でも楽しめる空間を利用者様と一緒に作っていきます。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所を知って頂き、気軽に訪問して頂ける環境を作っていきます。	月1回藍カフェ（認知症カフェ）を開催し地域の方に参加していただいている。	民生委員からの情報収集が不十分である。	近所に心配な方がいないか等、民生委員と情報交換したり、地域の方が気軽に訪問していただける環境を作っていきます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	時々地域の行事にお誘いいただき参加している。今後も継続して交流を図っていきます。	餅投げ、夏祭り等地域のイベントがある時はできるだけ参加し交流を図っています。	行事も多く、色々な場所への外出の機会があり、利用者も楽しめている。	馴染みの店に買い物に行ったり、イベントに参加するなど、今以上に外出する機会を作りたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の議事録配布を継続しながら、定期的に配布している通信等も利用し、事業所の取組みを周知します。	利用者家族に運営推進会議の案内をし、参加できなかったご家族には議事録や資料を配布し活動状況をお伝えしています。	意見が出しやすいように声かけしながら進めているのが良い。	引き続き運営推進会議の議事録や資料を配布し事業所が行っていることを周知します。
F. 事業所の防災・災害対策	消防署の指導を頂きながら、継続的に訓練し備えて行きます。	消防署立ち会いで訓練をしご指導いただきました。また炊き出し、仮設トイレ設置、トリアージ等の訓練をしています。		引き続き定期的な消防訓練や災害訓練を継続していきます。